

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成27年度分）

団体名：与謝野町

成果指標 ①	成果指標の目標数値	一人当たりのごみの減少 (H23 : 923g/人・日⇒H29 : 871g/人・日)		成果指標の実績値 (28年3月31日時点)	平成27年度912g/人・日
	成果指標の達成状況	△	(左の理由)	昨年度と比較し、20g/人・日増加した。H28年度はごみ減量期間として、取り組んでいる。	
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)	—	(時期)
成果指標 ②	成果指標の目標数値	阿蘇海の水質向上 (COD値：科学的酸素要求量) (H23 : COD値4.2mg/L→H29 : 3.0mg/L)		成果指標の実績値 (28年3月31日時点)	平成27年度 : 3.9mg/L
	成果指標の達成状況	○	(左の理由)	前年度から比較すると-0.8mg/Lとなり、成果が出ている。	
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)	—	(時期)
成果指標 ③	成果指標の目標数値	防災訓練参加者数の増加 (H23 : 9,892人⇒H29 : 13,000人)		成果指標の実績値 (28年3月31日時点)	平成27年度670人
	成果指標の達成状況	△	(左の理由)	避難所に避難してきた人の数であり、避難行動をとった住民の方はさらにいる。避難行動をとった方の数を把握していないため、670人という結果になった。来年度は避難行動をとった方も含めた参加者数を把握する。	
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)	—	(時期)
成果指標 ④	成果指標の目標数値	常習浸水地域の解消 (H23 : 5か所⇒H29 : 0)		成果指標の実績値 (28年3月31日時点)	平成27年度3か所
	成果指標の達成状況	△	(左の理由)	本年度、新たに1か所事業を実施する。	
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)	—	(時期)
本年度の事業実績が 成果指標の達成に与えた効果 ※未達成の場合も効果を記載すること	<p>風水害を想定した防災訓練を行ってきた。住民も防災に関する意識は高くはなっているが、防災訓練への参加者数増加には結びついていない。今後も更なる防災訓練の充実・広報活動等に努めていく必要がある。</p> <p>ごみ量については、昨年と比べ一人あたりの量が増えた。与謝野町は新ごみ処理施設の建設を契機にH28度を、ごみ減量取り組み期間とし、広報紙での連載をはじめ減量の呼びかけをしている。特に可燃ごみの減量を推進しており、H26度比で4割の削減を</p> <p>※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方針についても記載すること。</p>				
関連事業との連携効果	<p>交付対象事業で安心・安全な環境整備を行い、関連事業において住民が主体となる防災啓発の事業を実施した。特に啓発事業に関しては、住民に身近な消防団員等が啓発を行うことで効果があった。</p>				
府と市町村等との連携に資する成果	<p>地域活性化に有効と思われる事業は府と連携して支援にあたった。</p>				

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成27年度分）

団体名：与謝野町

本プロジェクトに対する自己評価	住民の自治意識を高める成果	避難所等、災害時に住民の利用が想定される場所の整備を行い、住民が自ら避難行動を行う際に一助となることが期待できる。
	リーディング・モデル成果	全町に拡張されるCATV事業による加入者各戸への「FM告知放送端末機」の整備（本事業とは別事業）と連携させた、一括統制された防災行政無線システムを導入し、災害に強い安心・安全なまちづくりの実現を目指す。
	広域的波及成果	防災行政無線の整備など、合併後は地域ごとにまちまちだった防災体制の統一が図れてきている。また、自然環境の分野でも阿蘇海周辺のみならず、野田川流域全体で環境保全に努める気運が醸成されてきている。
	行財政改革に資する成果	消防施設の改修整備などにより施設の長寿命化を図っている。
	その他の成果	

（記載要領）

- 1 プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 2 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 3 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 4 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは—を記載すること。